



親子が教わるなど、スチロールや発泡スチロールや浮き球や漂着物の製作を教わる親子たち=15日、川満漁港あずま屋

夏休み宿題ヒントに

環境クラブ 海や自然テーマに教室

宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)の夏休みの宿題・自由研究教室が15日、下地の川満漁港内で行われた。同クラブのエコガイドが自由研究の取り組み方、工作のコツなどを指導。参加した親子が海の漂着物を使っ

た工作のヒントやマングローブの観察ポイントを教わっていた。

初めて開かれた教室には11家族30人が参加。マングローブの種「ペットボトルアクアプランター」「漂着物工作」の3コースで行

われた。漁港内のあずま屋を中心にエコガイドたちが各コースで講師を務めた。

このうち漂着物工作ではペットボトルを使った風車や浮き球の貯金箱の作り方を教えていた。参加者は発泡スチロールや植物の種などの材料を手に様々なアイデアを出していた。息子

参加した大庭優子さん(35)は「これから海へ行って何か見つけてきたい。身近なもので色々なものを作るのに参考になった。夏休みの宿題も出来そう」と話していた。

マングローブの種コースではマングローブ遊歩道で動植物を観察し、見たものを絵に描いていた。砂川健弥くん(平一小6年)は「オオゴマダラやヤエヤマヒルギ、トビハゼなどが見られた。マングローブの木の色々な仕組みが分った。根の形もおもしろかった。夏休みの自由研究に役立ちそう」と感想を述べた。

マングローブ観察で見た植物などを描く参加者たち
=15日、川崎漁港



マングローブじっくり観察

宮古島環境クラブ

自由研究教室を開催

宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)主催の夏

休みの宿題・自由研究教室が15日、川崎漁港で開かれた。1家族30人が参加しマングローブ観察や漂着物工作、ペットボトルを使ったプランター作りを体験した。

夏休みの自由研究などを通じて自然を理解してほしいとの思いから今年初めて開催された同教室。3人の川崎エコガイドが講師を務め、観察の仕方や漂着物としてよく見られる浮き球を使った貯金箱の作り方などを指導した。

マングローブ観察では、植物の種類や見分け方などをガイドが説明。子どもたちは印象に残った植物などをイラストに描いた。ヤエヤマヒルギの種子を描いた平良花鈴さん(南小5年)は「初めはどの木も全部同じに見えたが、説明を聞いて葉っぱの形などで違いが分かるようになった。マングローブをじっくり観察したのは今回が初めて。良い勉強になった」と感想を語った。

下地会長は「面白い植物などが身近にあることを知って、自然を感じてほしい」との思いを示した。